

第18話 インドダンスの夕べ

デリー滞在中はよくインドダンスを見に行きました。キャビンクルーを誘ったら皆、着ていくものと躊躇したのですがまったく心配無用。古びた小さな公民館のような劇場で床はコンクリートの打ちっぱなし、天井にはミラーボールと大きな扇風機が今にも落ちてきそうな感じで回っており、外人客も短パンにゴム草履なんかで来ています。100人くらいは入れると思うのですがいつも最前列のパイプ椅子に10人くらいの客がいるだけです。

夕方1回だけの公演ですが出演するのは旅芸人の一座という人達で、座長格の男性がおもむろに太鼓をたたき始めると踊り手が振り付けの練習をし、僕らもそれを何となく眺めているうちに、いつのまにか舞台が始まるのです。派手なメイクをした民族舞踊から、日本の盆踊りのような田植えの踊り、途中に変な曲芸まで披露してくれます。しかしニコリともせず黙々と演目を消化する感じで、盛り上がりには欠けるのですが、わずかなお金で一生懸命舞台に立つ人々の姿に引かれ何度も足を運んでしまうのです。

舞台が終わると彼らもすぐに出てきてスクーターなんかに乗って家路に着きます。僕達も今見たのはインドダンスなのか旅芸人一座の哀歓なのか、奇妙な感慨に浸りながらホテルに戻るのです。

